

# これまでのとりくみ



「モーモー輪地切り」実証実験で活躍したあか牛と所有者を表彰

草原の荒廃・喪失を防ぎ、保全・再生を図るため、環境省では、国立公園としての景観保全や生物多様性保全の観点から必要な施策を検討・実施するとともに、草原保全へ向けての機運を高める事業に取り組んできました。これに呼応するかたちで草原の維持・保全に関連するさまざまな動きが生まれています。

## 農業の多面的機能確保のための助成

(平成12年より 農林水産省・熊本県など)

山あいの農地が持つ多面的機能を保つため、中山間地の集落や農家に資金を交付する直接支払制度が設けられました。阿蘇地域では急傾斜の牧野を対象にこの制度が適用され、牧野組合が受け手となって必要な施設整備や野焼き・輪地切りの出役助成などに活用されています。



## 草原保全

### 国民的な価値が損われることを防いだり 下流域住民の利益を守るために

#### 公的な保護管理や 担い手への直接助成

希少動植物生育地の保護管理や草原の維持管理作業の担い手への補助金の交付などが国や県・町村によって行われています。

#### 広範囲の人々が維持管理 を支えるしくみづくり

草原募金や草原維持管理活動ボランティア派遣、農業と一体となったツーリズムの展開やあか牛肉の消費拡大へのとりくみなどが始まっています。

## 野焼き・輪地切りボランティア

(平成11年より  
財団法人阿蘇グリーンストック)

野焼き・輪地切りといった草原を維持する上で負担の大きい作業の人手不足を解消するため、ボランティアを組織し、牧野組合が行う野焼き・輪地切りを支援しています。



## 阿蘇の草原などを活用した ツーリズム

(財団法人阿蘇地域振興デザインセンター・阿蘇パークボランティアの会)

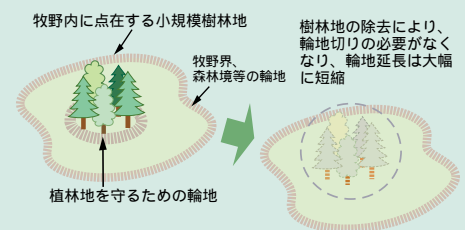
阿蘇地域振興デザインセンターでは、地元の人と交流しながら、阿蘇の草原や歴史、文化などに触れてもらう新しい旅のスタイル「カルデラツーリズム」を提案し、モデルツアーなどを実施。また阿蘇パークボランティアの会では、古くから牛と人が往来した「草の道」を歩き、地域の営みへの理解を深める催しなどを開いています。



## 点在樹林地除去による 草原景観復元支援

(平成14年より 環境省)

草原の中に島状に点在する樹林地周辺では、輪地切り延長が長く管理が大変なため、野焼きが行われず葎化が進行しています。こうした樹林地を除去し、草原景観の復元を支援しています。



## 第5回全国草原シンポジウム・サミットin阿蘇

(平成14年 第5回全国草原シンポジウム・サミットin阿蘇実行委員会)

草原利用の活性化に取り組んでいる地域間の連携と意見交換を目的に、全国各地の自治体関係者および研究者、NGO、市民グループ、地元畜産農家、地元観光関係者などが集まり、活発な討議がなされました。



## 熊本型放牧

(平成8年より 熊本県・熊本県畜産農協)

低コスト畜産経営を目指し、年間を通して牧野で放牧する「周年放牧」、夏は牧野、冬は転作田・水田裏で放牧する「夏山冬水田放牧方式」、入会権者以外の畜産農家の牛を預かって牧野で放牧する「預託放牧」などのとりくみを進めています。



## あか牛の産直による流通拡大とブランド化

(平成11年より 南阿蘇畜産農協)

健康で安全な牛肉の流通拡大に向けて、草原を利用した子牛の生産から肥育まで行う地域内一貫経営を推進。生活協同組合グリーンコープと産直契約を結んで南阿蘇のあか牛肉を提供し、年々取扱量を増やしています。



# 再生に向けたとりくみ

### ベースとなる共通認識や合意づくりのために

#### 社会的関心・理解の獲得と地域内の合意形成

草原保全に関するシンポジウムや体験学習、交流会などが開催されるとともに、草原とその維持管理に関する情報収集などが行われています。

### 産業活動を通じて維持管理を続けるために

#### 維持管理作業負担軽減のための基盤整備等

輪地切り省力化のための新技術の開発・普及、牧野の管理道や恒久輪地の整備、入り組んだ土地利用合理化の検討などが進められています。

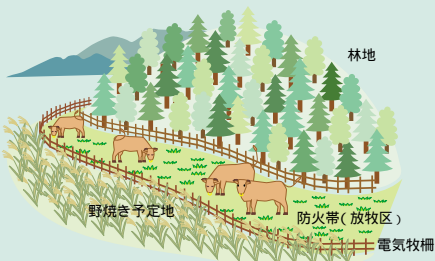
#### 畜産振興を通じた牛による草原維持の継続

阿蘇の牧野を活用した新しい畜産技術の開発・普及、あか牛肉の流通拡大、入会権調整による牧野利用の活性化へのとりくみなどが進められています。

## 輪地切り省力化技術の検討(モーモー輪地切り)

(平成13年より 環境省)

牛の採食行動を活用した防火帯づくり「モーモー輪地切り」の実験と検証を行いました。大型機械などに比べ少ない投資で行えるため、導入しやすく有効な輪地切り省力化技術として、また、環境に配慮した技術として期待されています。



## 環境省のとりくみ

**平成8～10年度** 参加型国立公園環境保全活動推進事業では、草原懇話会の開催、野焼き体験交流会の実施、パンフレットの作成・配布などを行いました。

**平成12～13年度** 国立公園内草原景観維持モデル事業では、保全すべき草原の評価、輪地切り省力化技術の検

討、合意形成に向けたアンケート調査・イベント開催などを実施しました。

**平成13～14年度** グリーンワーカー事業では、「モーモー輪地切り」普及推進による草原景観維持、点在樹林地除去による草原景観復元支援を進めました。

### 保全すべき草原の評価

景観保全上の重要性、希少動植物保護上の重要性という2つの指標と、牧野組合の状況を組み合わせて評価した結果、保全対策の緊急性が高い重要地域として、草千里・米塚をはじめとする中央火口丘周辺と大観峰を代表とする北外輪山一帯が抽出されました。



米塚



草千里



北外輪山